

## 第7節 中南米

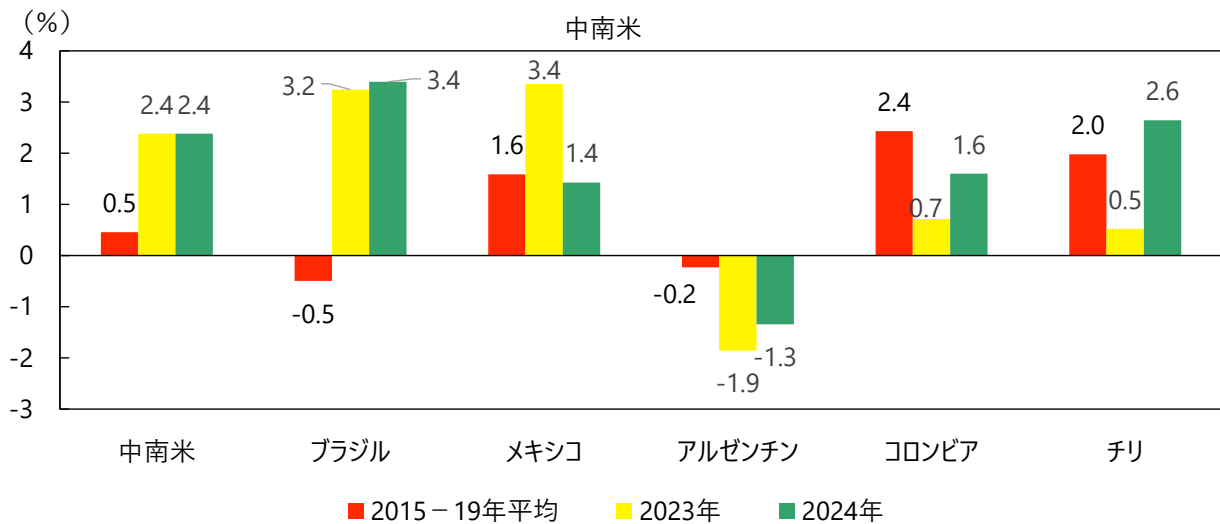
### 1. GDP の動向

第1-3-7-1図は中南米の実質GDP成長率を示している。中南米は、2015年から2019年は0.5%、2023年と2024年は2.4%の成長率で推移している。各国とも成長率の変動が見られ、ブラジルは-0.5%で推移したのち、2023年、2024年は3%以上の成長率で推移している。他方、アルゼンチンは2023年、2024年と2年連続でマイナス成長となった。メキシコは2015年から2019年平均では1.6%の成長となり、2023年は3.4%の成長率となったものの、2024年は1.4%の成長率となっている。コロンビアとチリも年によって変動はあるものの、第1-3-7-1図によれば0.5%から2.5%程度の成長率となっている。

第1-3-7-2図は、中南米の実質GDP予測を示しており、いずれの国も経済成長が見込まれている。特に、これらの国の中では、アルゼンチンの成長率が高く見込まれている。

第1-3-7-3図は一人当たり実質GDPの推移を示している。国及び年によって異なるものの、長期的には増加傾向となっている。

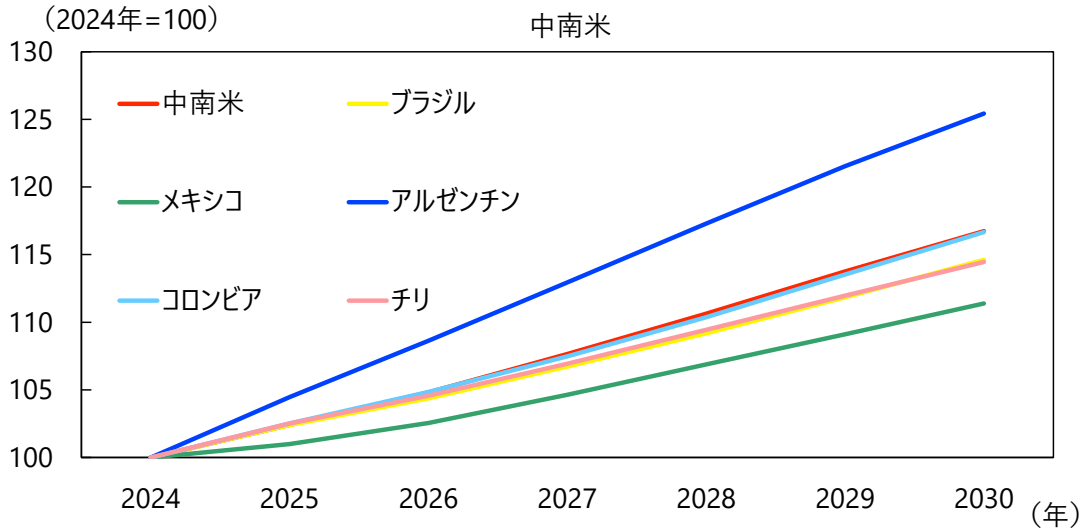
第1-3-7-1図 中南米の実質GDP成長率



備考：「中南米」については、本章で定義した地域区分の国及び地域についてIMF「WEO」の各国GDP成長率からGDP (PPPベース)でウェイト付けした上で推計。

資料：IMF「WEO」(2025年10月)から作成。

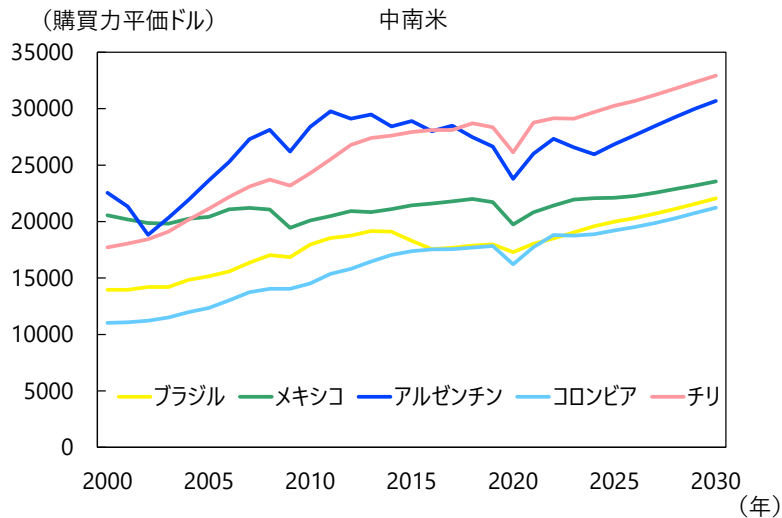
第 1-3-7-2 図 中南米の実質 GDP 予測



備考：「中南米」については、本章で定義した地域区分の国及び地域について IMF「WEO」の各国 GDP 成長率から GDP (PPP ベース) でウェイト付けした上で推計。

資料：IMF 「WEO」 (2025 年 10 月) から作成。

第 1-3-7-3 図 中南米の一人当たり GDP



備考：IMF 「WEO」 (2025 年 10 月) のデータ制約により、実績は 2024 年までであり、2025 年以降は予測値。2026 年 1 月 29 日時点データ。

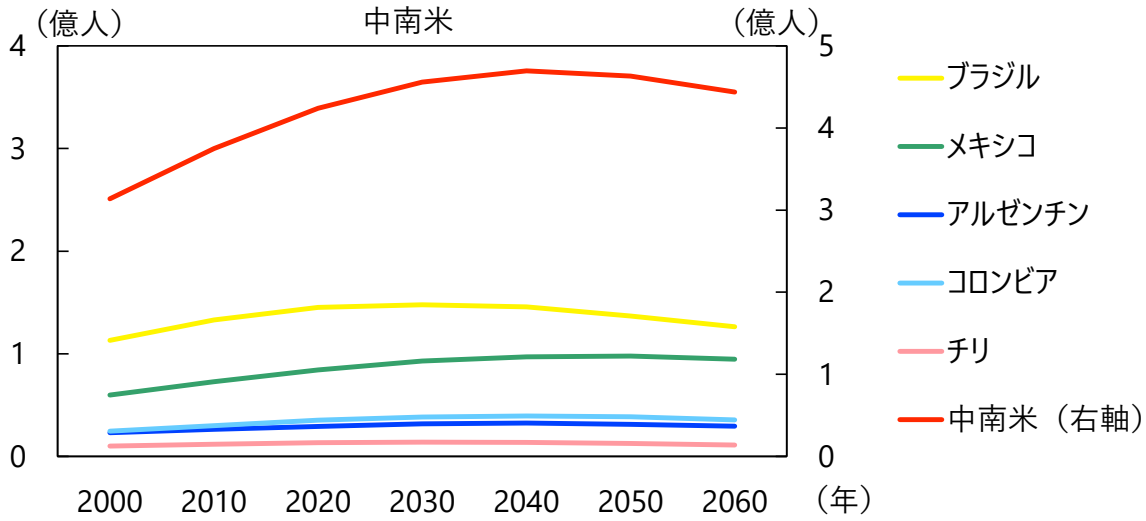
資料：IMF 「WEO」 (2025 年 10 月) から作成。

## 2. 人口の動向

第 1-3-7-4 図は生産年齢人口の動向を示している。中南米全体としては、2040 年頃をピークとして生産年齢人口は減少していくと見られている。ブラジルは徐々に減少に転じると推定されている一方、メキシコは 2050 年まで緩やかに増加していくと見られている。

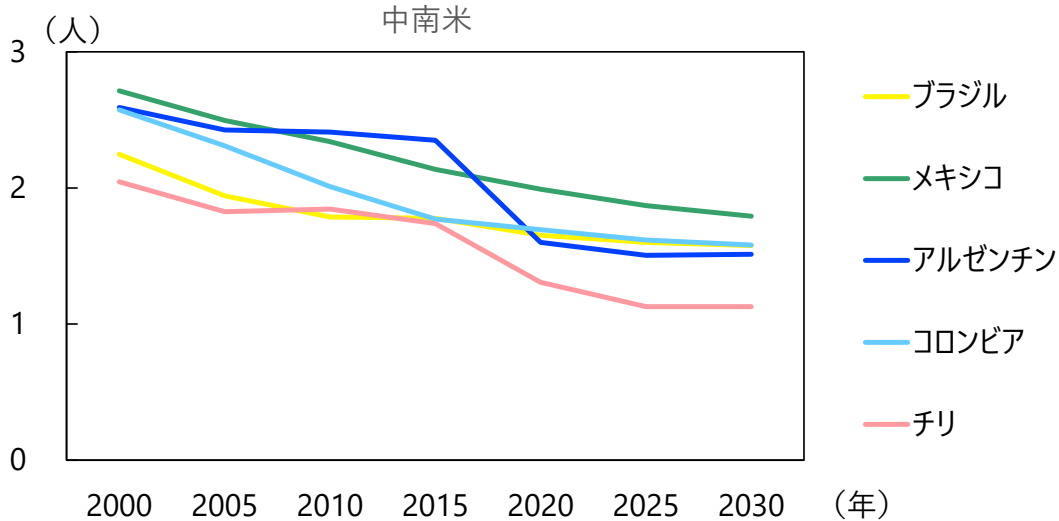
第1-3-7-5図は合計特殊出生率を示している。いずれの国も低下傾向にあり、2025年にはこれらの全ての国で2を下回っている。

第1-3-7-4図 中南米の生産年齢人口



備考：「中南米」については本章で定義した地域区分の国及び地域一覧を合算し推計。本データは中位推計。当該期間は予測期間を含む。2026年2月2日時点データ。  
資料：国連「World Population Prospects 2024」から作成。

第1-3-7-5図 中南米の合計特殊出生率



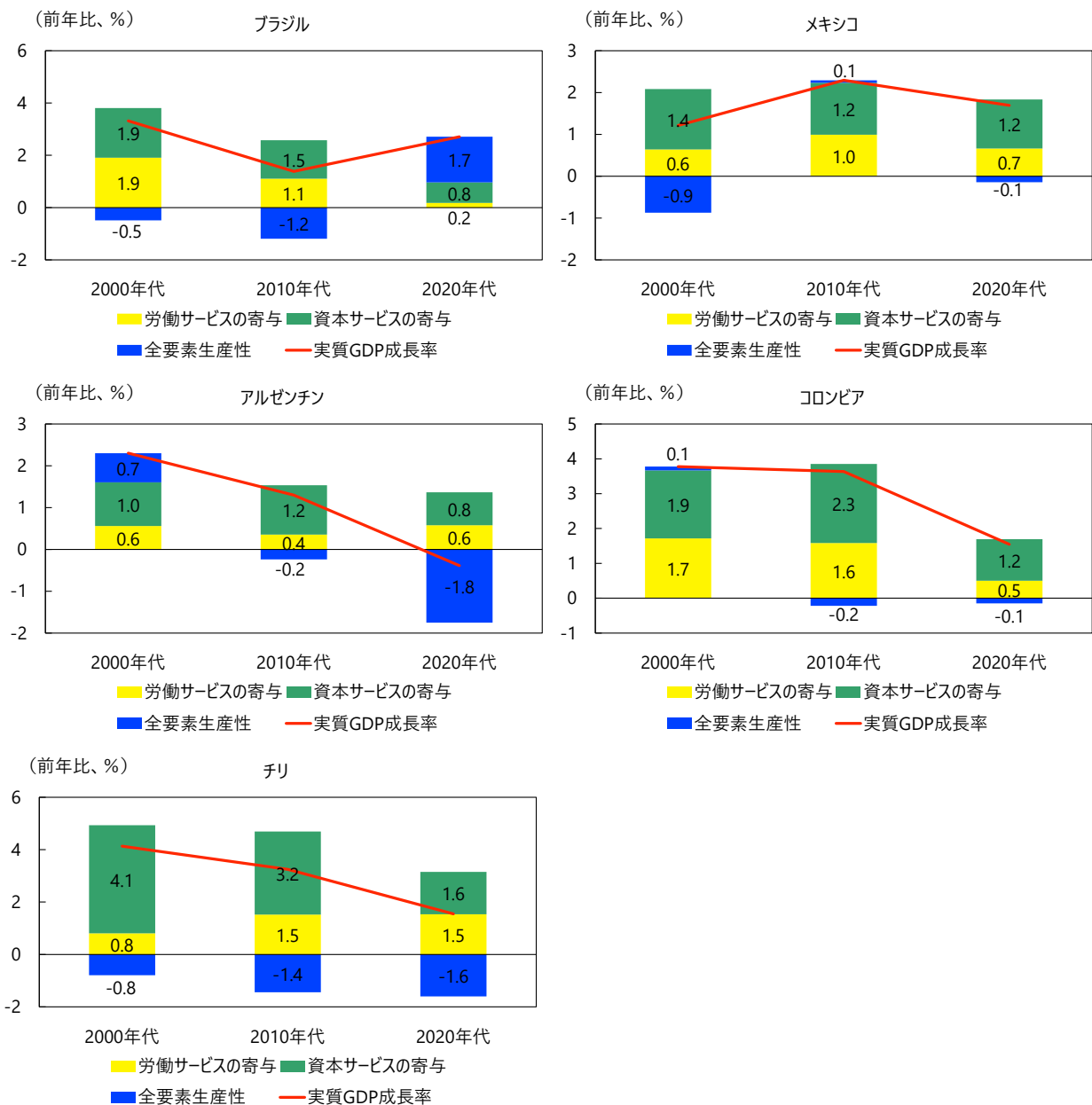
備考：本データは中位推計。当該期間は予測期間を含む。2026年2月6日時点データ。  
資料：国連「World Population Prospects 2024」から作成。

### 3. 成長会計

第1-3-7-6図は成長会計の結果を示している。メキシコ、アルゼンチン、コロンビア、チリは資本サービスの寄与が目立つ。他方、2020年代を見ると、ブラジルは生産性の寄与

が大きい一方、アルゼンチンとチリは生産性が大きくマイナスに寄与している。メキシコやコロンビアでも、生産性の寄与が小さい点は特徴的である。

第 1-3-7-6 図 中南米の成長会計



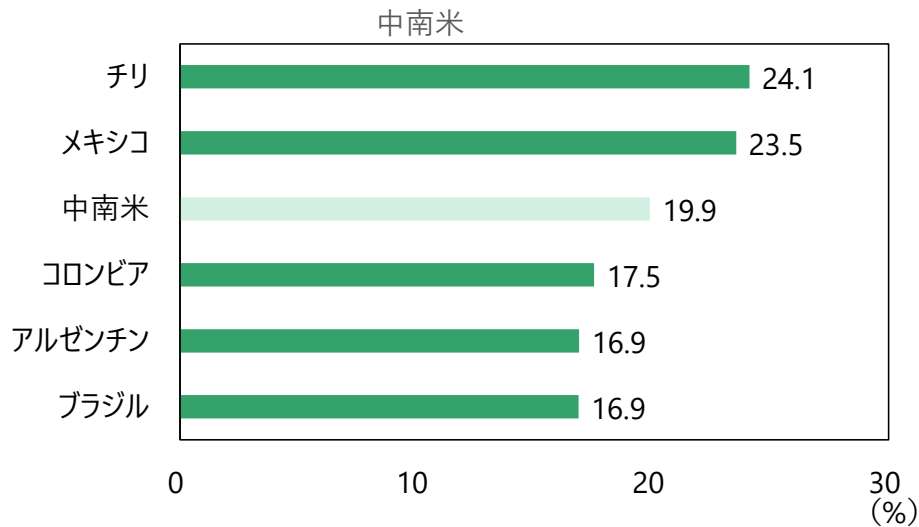
備考：2020年代は2023～2025年のデータを指す。2020年～2022年はコロナの影響を踏まえ推計から除いている。  
資料：コンファレンスボードから作成。

#### 4. 資本形成

第 1-3-7-7 図は総資本形成比率を示している。特に、チリ、メキシコでの総資本形成比率が当該地域の中では高い。

第 1-3-7-8 図は対内 FDI の動向であり、中南米全体としてはブラジルの動向が反映されていることが分かる。ブラジルでは、2010 年頃から対内直接投資額が大きくなっており、現在では中南米諸国の中で最大の投資先となっている。

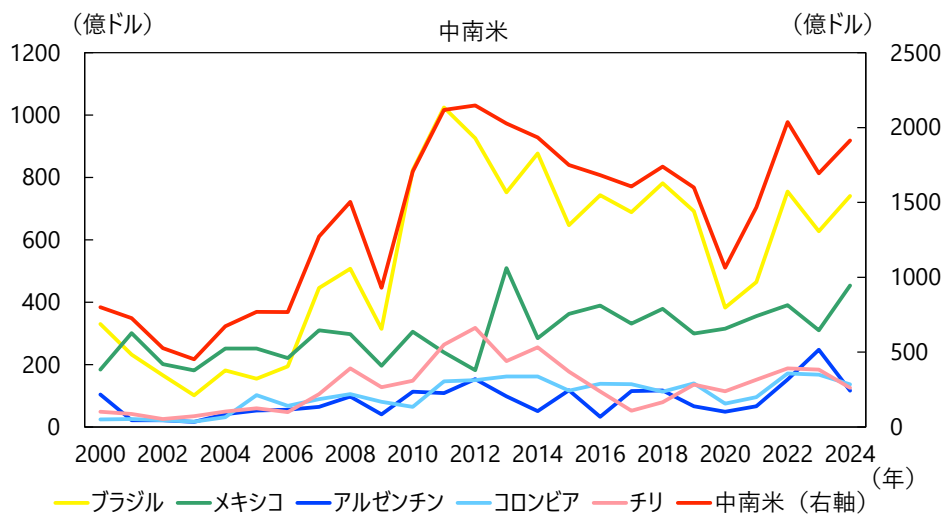
第 1-3-7-7 図 中南米の総資本形成比率



備考：「中南米」については、IMF「WEO」の総資本形成比率から名目 GDP でウェイト付けした上で推計。2022-2025 年平均の値。IMF「WEO」（2025 年 10 月）のデータ制約により、実績は 2024 年までであり、2025 年は予測値。

資料：IMF「WEO」（2025 年 10 月）から作成。

第 1-3-7-8 図 中南米の対内 FDI



備考：「中南米」については本節で定義した地域区分の国及び地域一覧を合算し推計。2026 年 1 月 8 日時点データ。  
資料：世界銀行から作成。

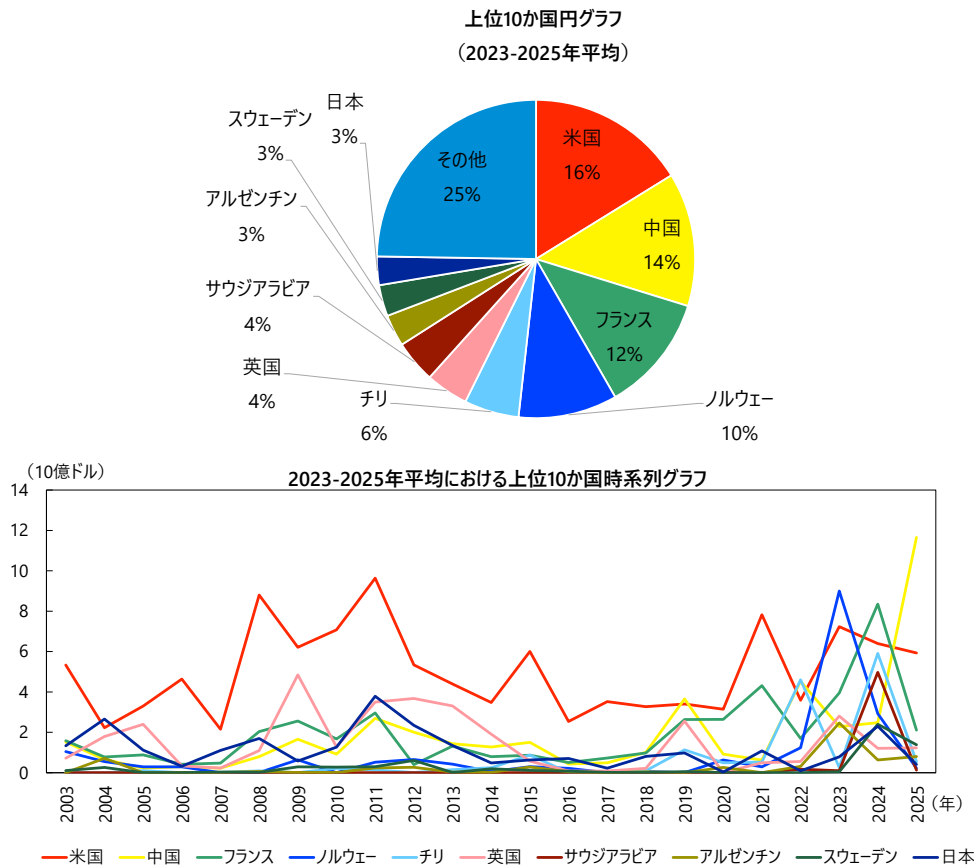
## 5. グリーンフィールド FDI

fDi Markets のデータを用いて、ブラジル、メキシコ、アルゼンチンのグリーンフィールド FDI の状況について確認する。

(1) ブラジル

2023年～2025年平均でブラジル向け FDI の上位 10 か国について見ると、1 位：米国、2 位：中国、3 位：フランスであった。中国、フランスは足下投資が増えているが、米国は 2003 年頃から継続的にブラジルに投資を行っている（第 1-3-7-9 図）。

第 1-3-7-9 図 ブラジルの対内 FDI 上位 10 か国

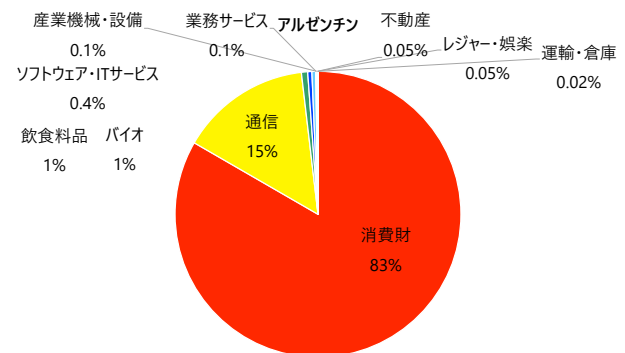
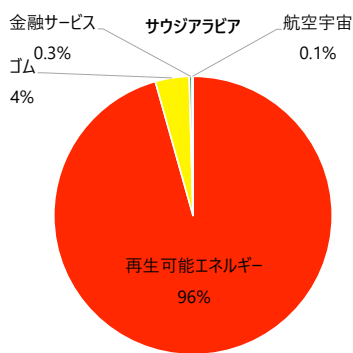
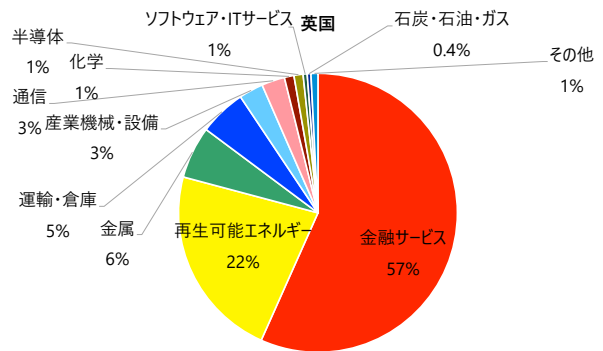
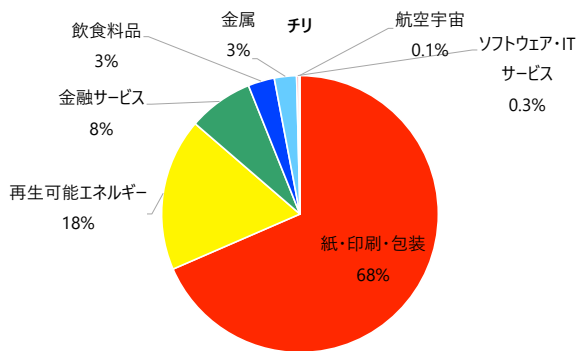
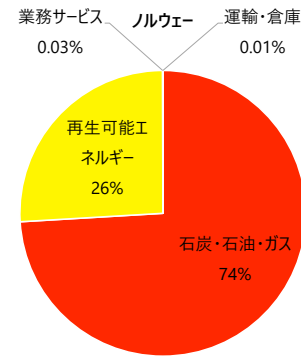
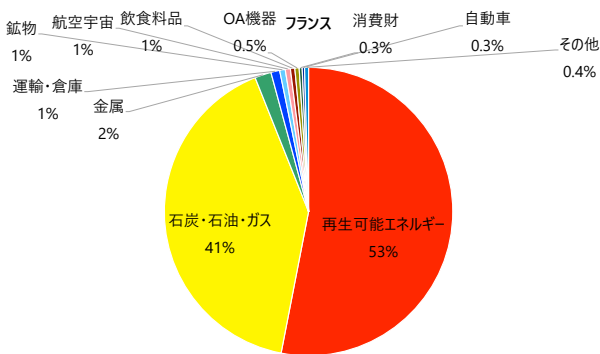
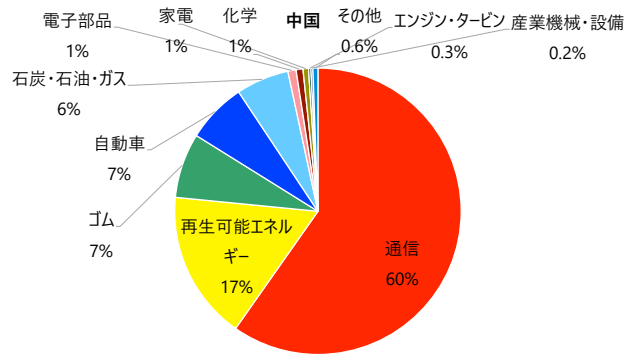
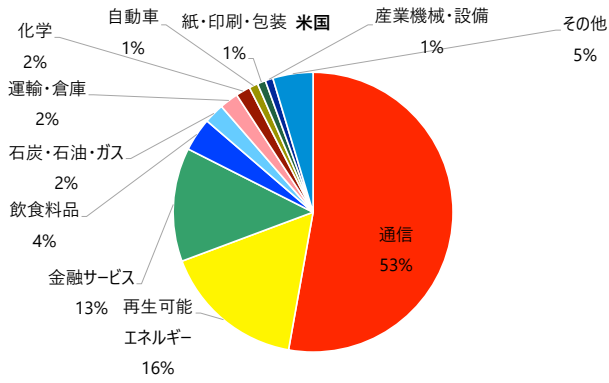


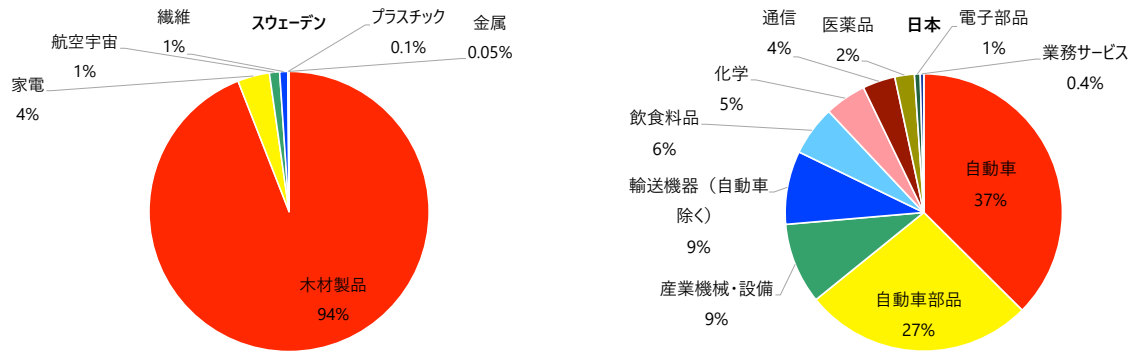
備考：円グラフは 2023～2025 年平均。2025 年は 1 月から 11 月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和 7 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のブラジル対内 FDI 上位 10 か国について、国別にセクター内訳を見ると、米国と中国は通信分野と再生可能エネルギー分野、フランスは再生可能エネルギー分野と石炭・石油・ガス分野が上位を占めている（第 1-3-7-10 図）。

第1-3-7-10図 ブラジルの対内 FDI 上位 10 国内訳

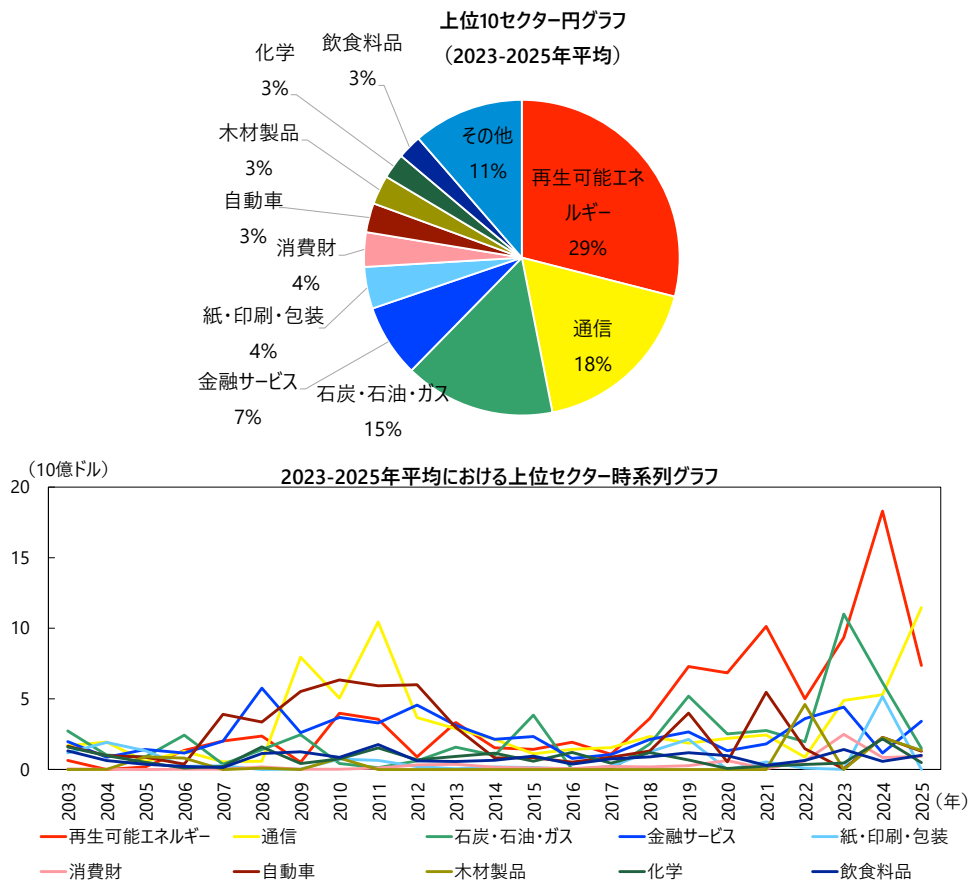




備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。  
資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

2023年～2025年平均でブラジル向けFDIの上位10セクターについて見ると、1位：再生可能エネルギー、2位：通信、3位：石炭・石油・ガスの順に多い。再生可能エネルギー分野への直接投資は2017年頃から増加傾向にある（第1-3-7-11図）。

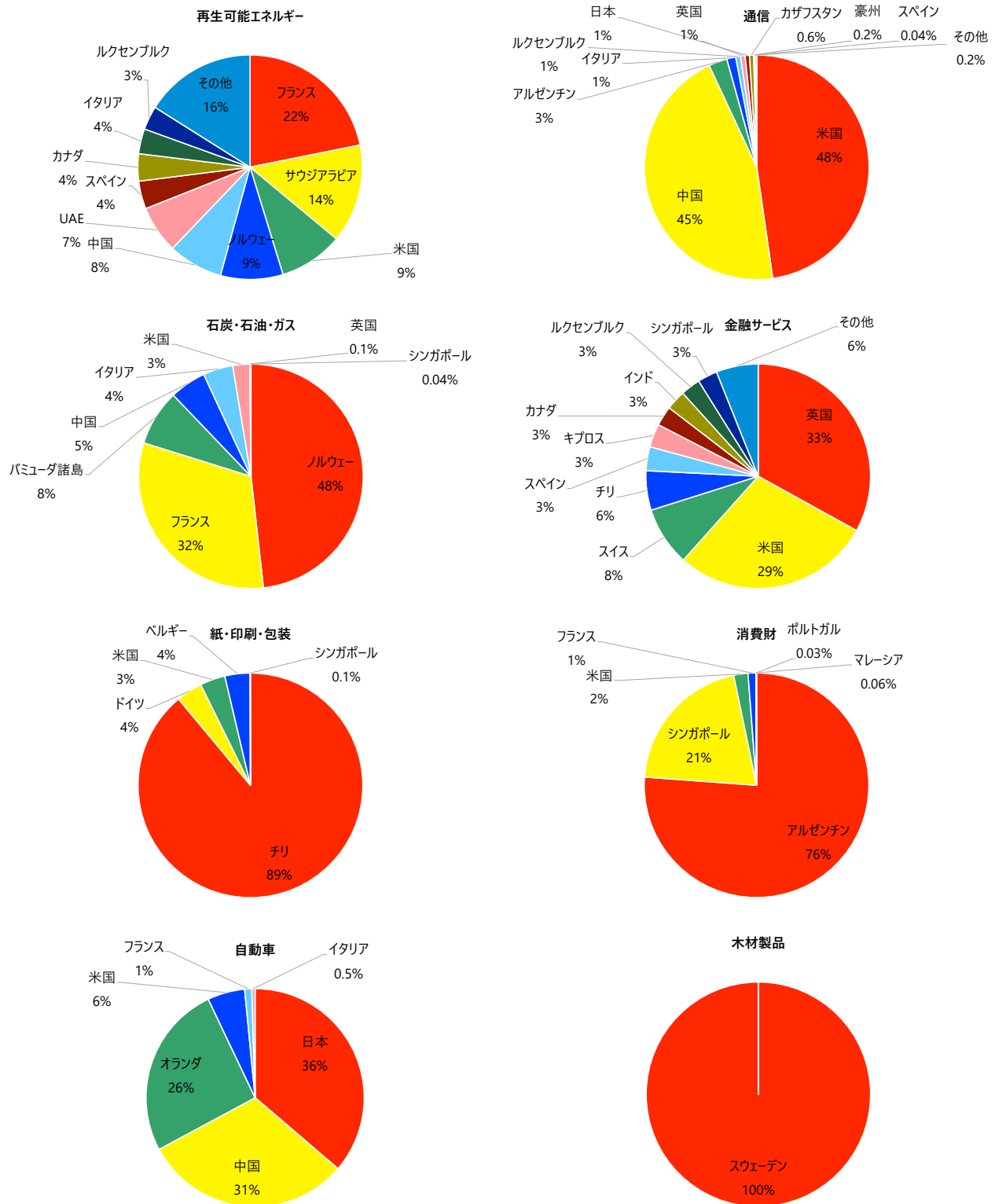
第1-3-7-11図 ブラジルの対内FDI上位10セクター

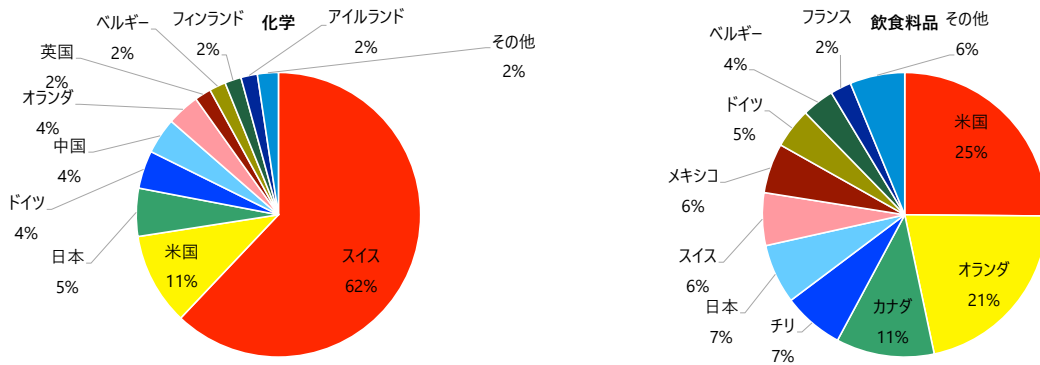


備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。  
資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のブラジル対内 FDI 上位 10 セクターについて、セクター別に投資国・地域の内訳を見ると、再生可能エネルギー分野ではフランス、サウジアラビア、米国、ノルウェー等から投資が行われている。他方、通信分野では米国と中国が全体の 9 割を占めており、特定の国からの投資が多い（第 1-3-7-12 図）。

第 1-3-7-12 図 ブラジルの対内 FDI 上位 10 セクター内訳



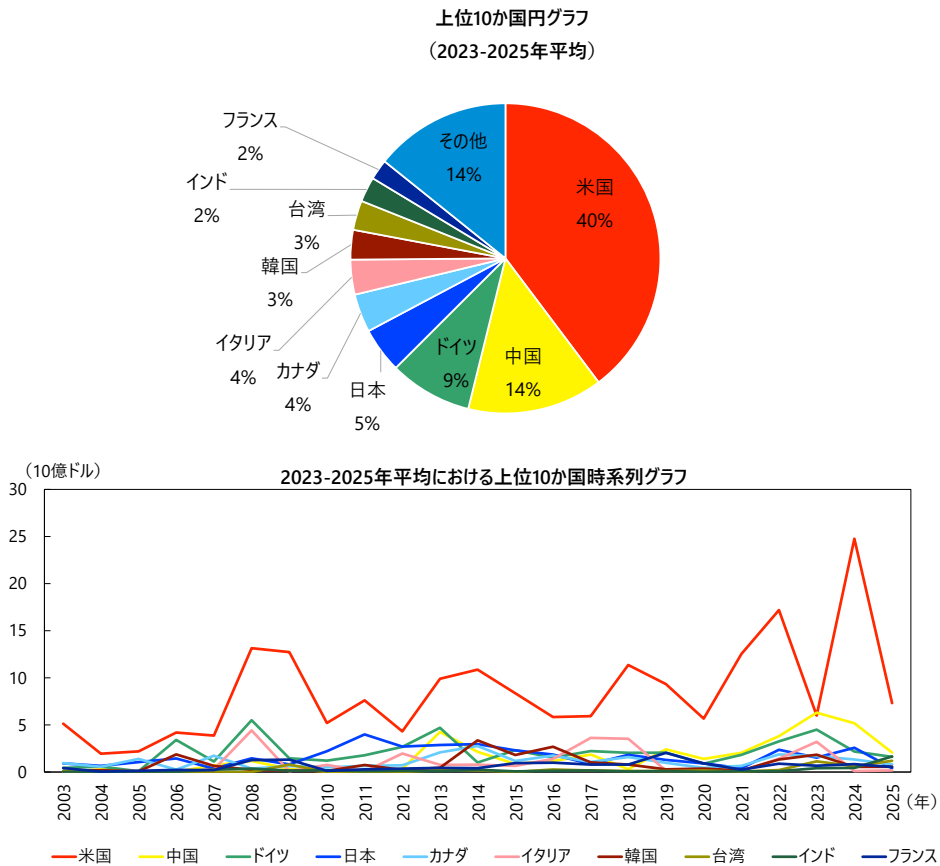


備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。通信分野は、オランダ、カナダ、メキシコ、ペルー、ウクライナはスペインと同じ金額であったが、表記上その他に含む。金融分野はケイマン諸島、ウクライナはシンガポールと同じ金額であったが、表記上その他に含む。  
資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

(2) メキシコ

2023年～2025年平均でメキシコ向けFDIの上位10か国・地域について見ると、1位：米国、2位：中国、3位：ドイツであった。特に米国は、2003年～2025年まで一貫して対メキシコ投資額が多い（第1-3-7-13図）。

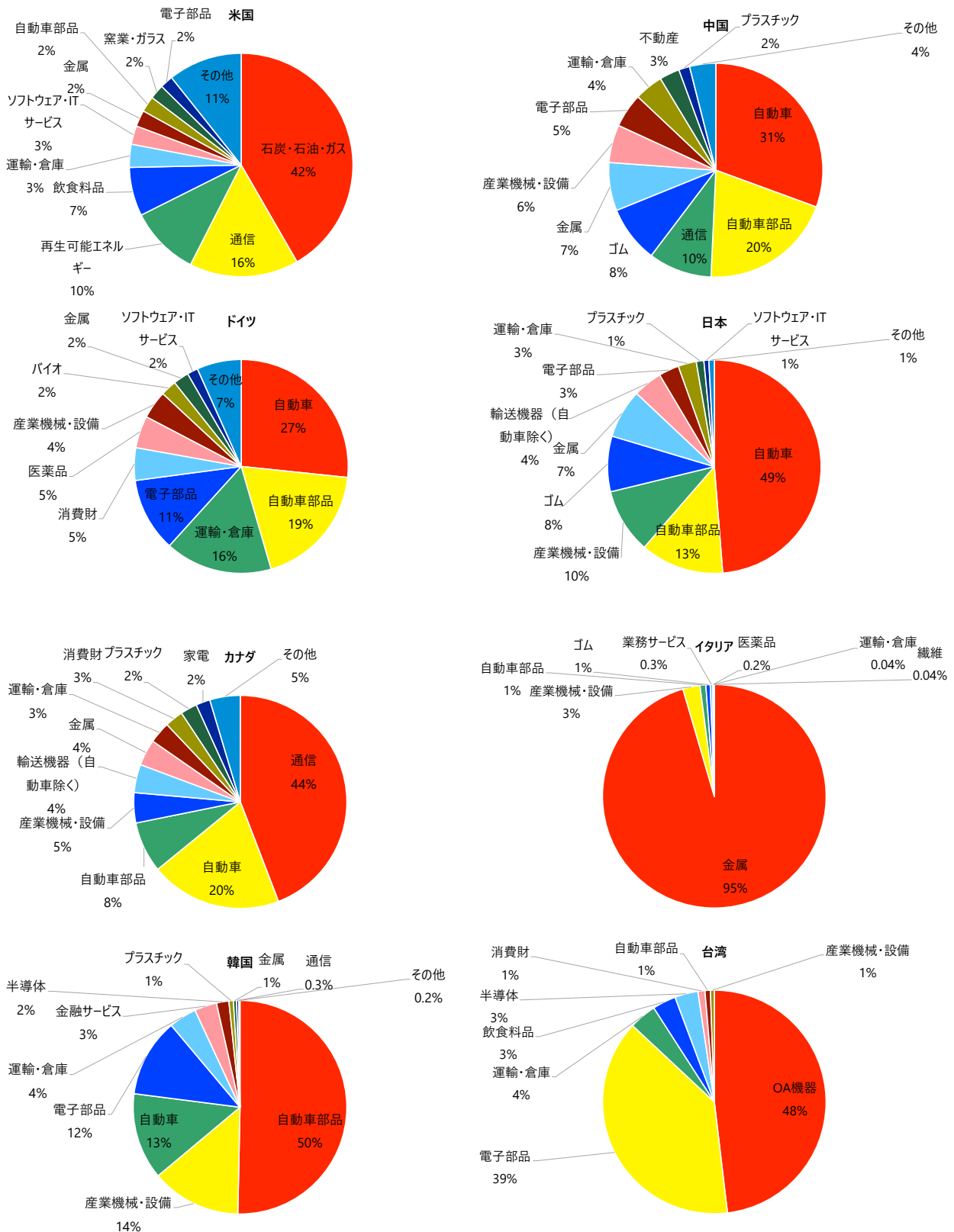
第1-3-7-13図 メキシコの対内FDI上位10か国・地域

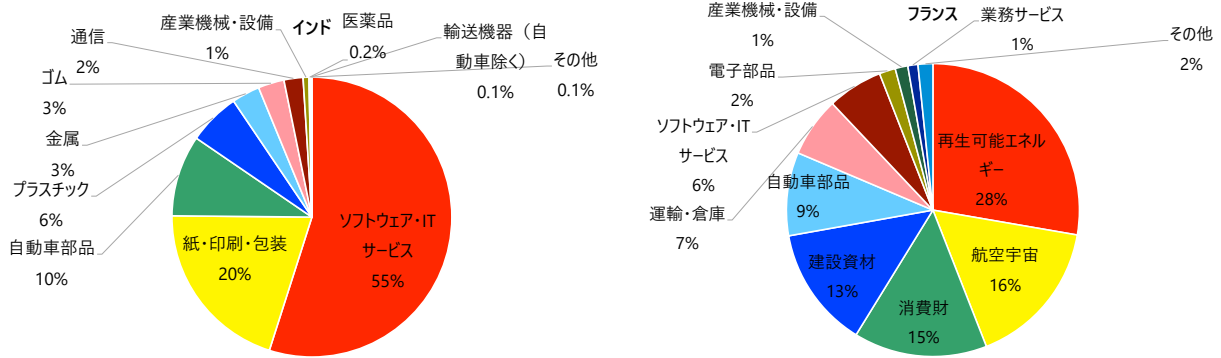


備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。  
資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のメキシコ対内 FDI 上位 10 か国・地域について、国別にセクター内訳を見ると、米国からの投資は石炭・石油・ガス分野と通信分野が上位となっている。米国の石油・ガス会社による液化天然ガスプロジェクトへの投資によるものと見られる。中国及びドイツからの投資では、自動車、自動車部品と自動車分野が上位を占めている（第 1-3-7-14 図）。

第 1-3-7-14 図 メキシコの対内 FDI 上位 10 か国内訳・地域



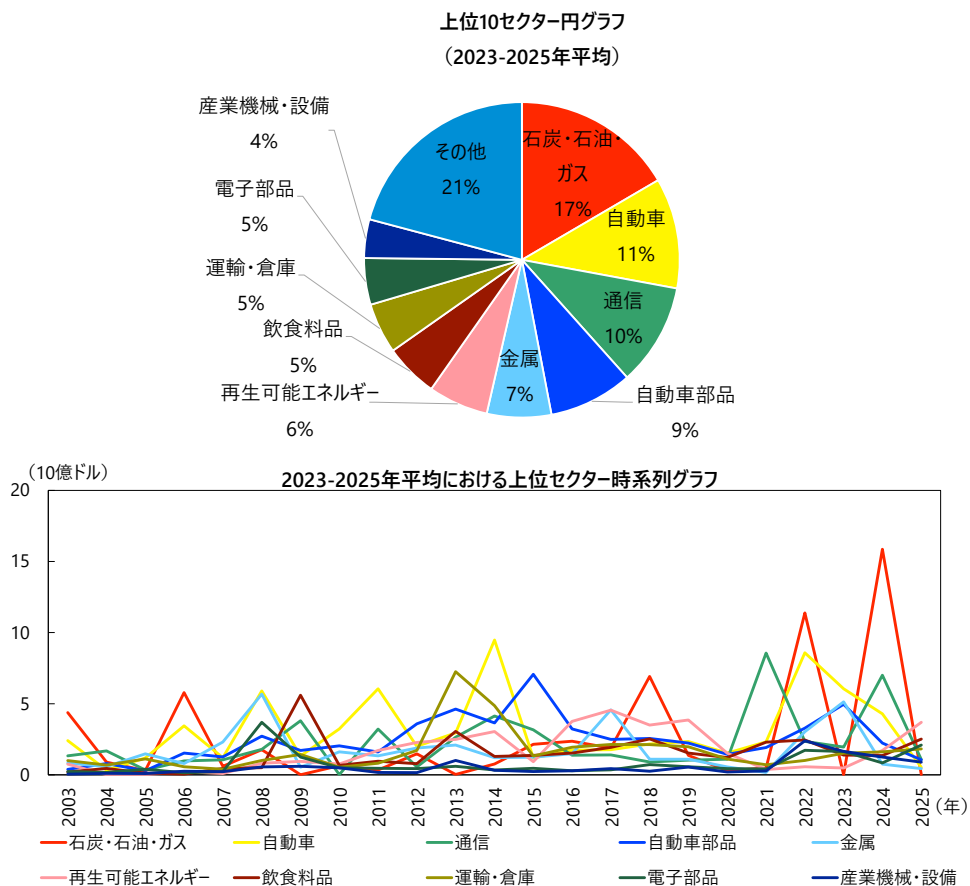


備考：円グラフは 2023～2025 年平均。2025 年は 1 月から 11 月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和 7 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

2023 年～2025 年平均でメキシコ向け FDI の上位 10 セクターについて見ると、1 位：石炭・石油・ガス、2 位：自動車、3 位：通信の順に多い（第 1-3-7-15 図）。

第 1-3-7-15 図 メキシコの対内 FDI 上位 10 セクター



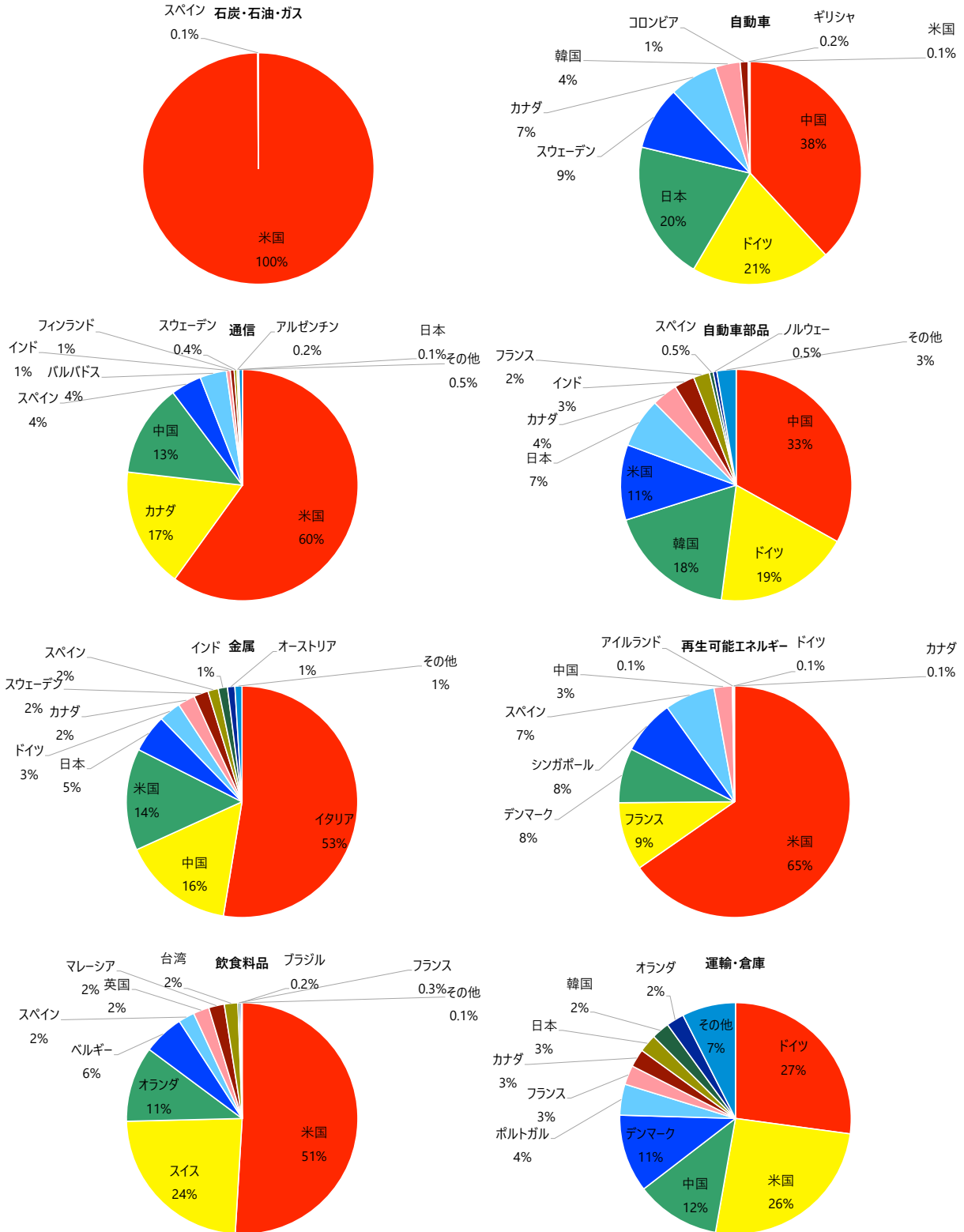
備考：円グラフは 2023～2025 年平均。2025 年は 1 月から 11 月時点までのデータである。

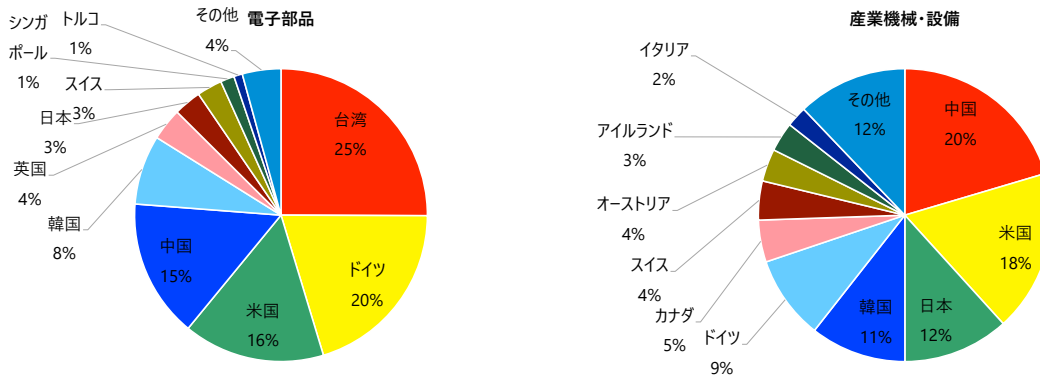
資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和 7 年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のメキシコ対内 FDI 上位 10 セクターについて、セクター別に投資国・地域の内訳を見ると、石炭・石油・ガス分野では米国、自動車では中国やドイツ、日本、そして通信

分野では米国とカナダからの投資が多い。また、電子部品分野では台湾からの投資が多く、投資元国の主要産業を担う企業がメキシコへの直接投資を活発に行っていることがうかがわれる（第1-3-7-16図）。

第1-3-7-16図 メキシコの対内FDI上位10セクター内訳





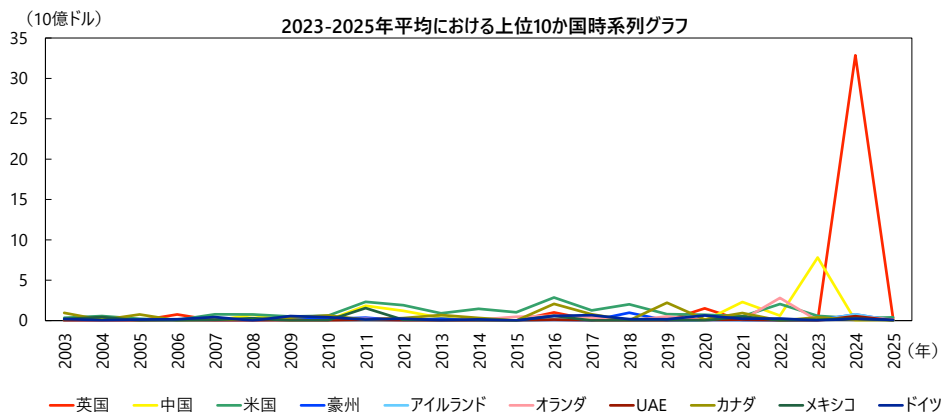
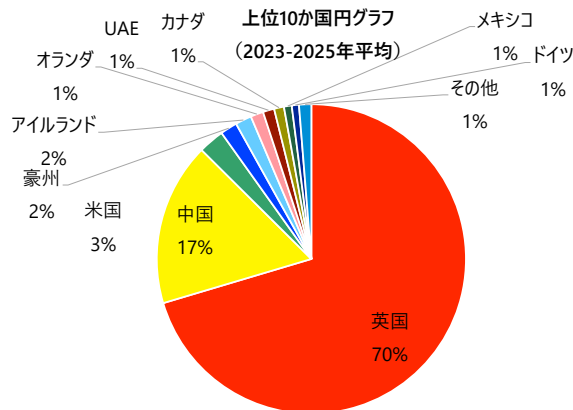
備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。通信セクターにおいて、フランス、英国、韓国、豪州、パルーは日本と同じ金額であったが、表記上その他に含める。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

### (3) アルゼンチン

2023年～2025年平均でアルゼンチン向けFDIの上位10か国について見ると、1位：英国、2位：中国、3位：米国であった（第1-3-7-17図）。

第1-3-7-17図 アルゼンチンの対内FDI上位10か国

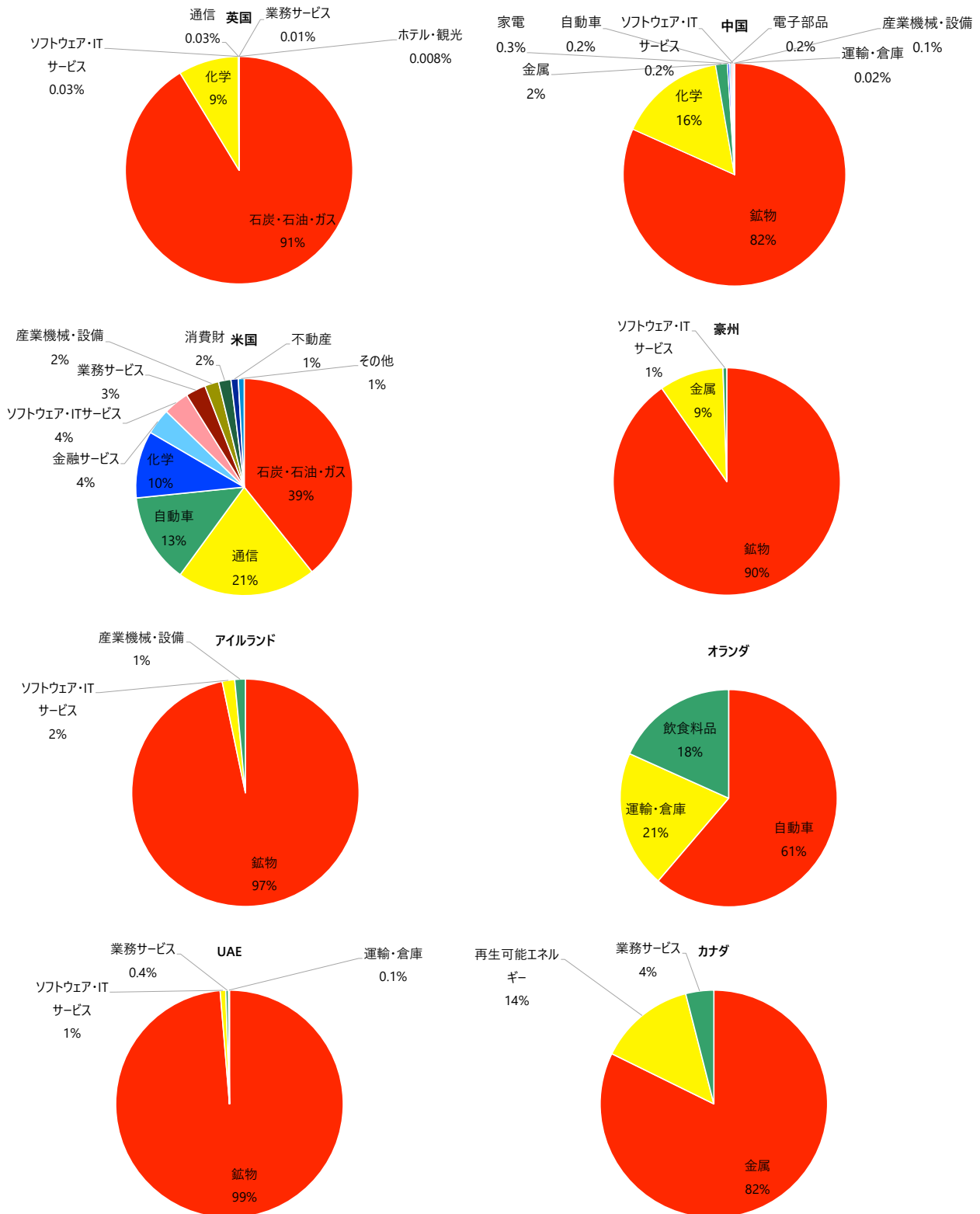


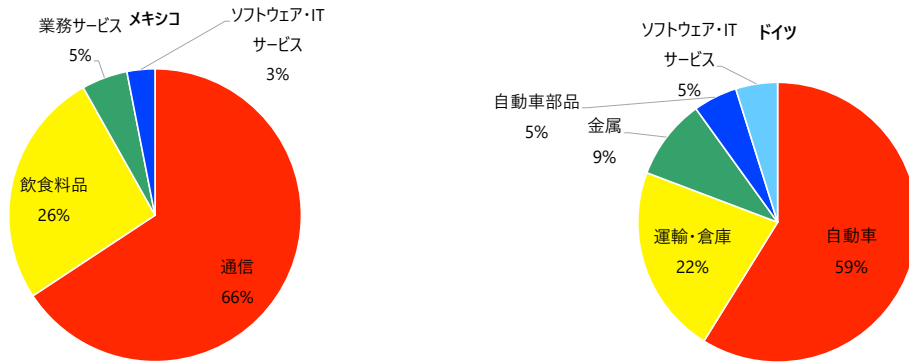
備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のアルゼンチン対内 FDI 上位 10 か国について、国別にセクター内訳を見ると、英国からは石炭・石油・ガス、中国からは鉱物、米国からは石炭・石油・ガス、通信への直接投資が多い（第 1-3-7-18 図）。

第 1-3-7-18 図 アルゼンチンの対内 FDI 上位 10 か国内訳



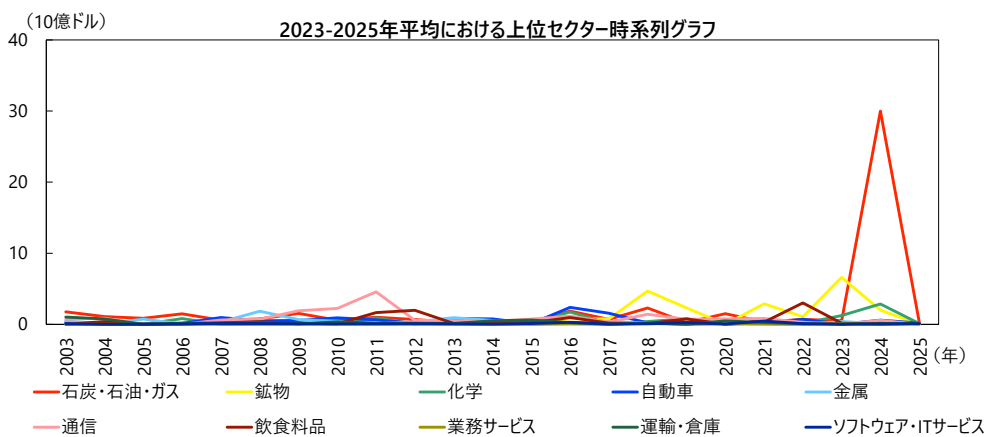
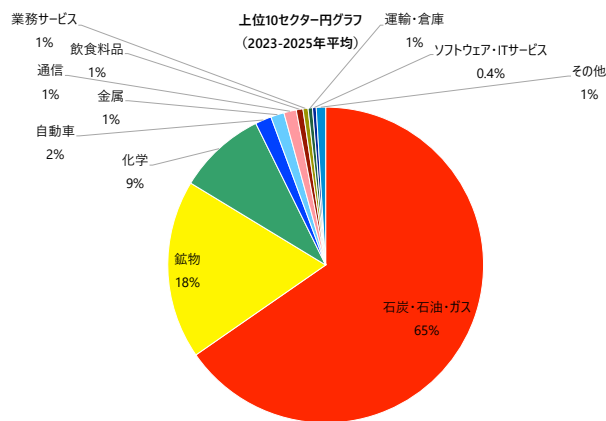


備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

2023年～2025年平均でアルゼンチン向けFDIの上位10セクターについて見ると、1位：石炭・石油・ガス、2位：鉱物、3位：化学の順に直接投資が多い（第1-3-7-19図）。

第1-3-7-19図 アルゼンチンの対内FDI上位10セクター

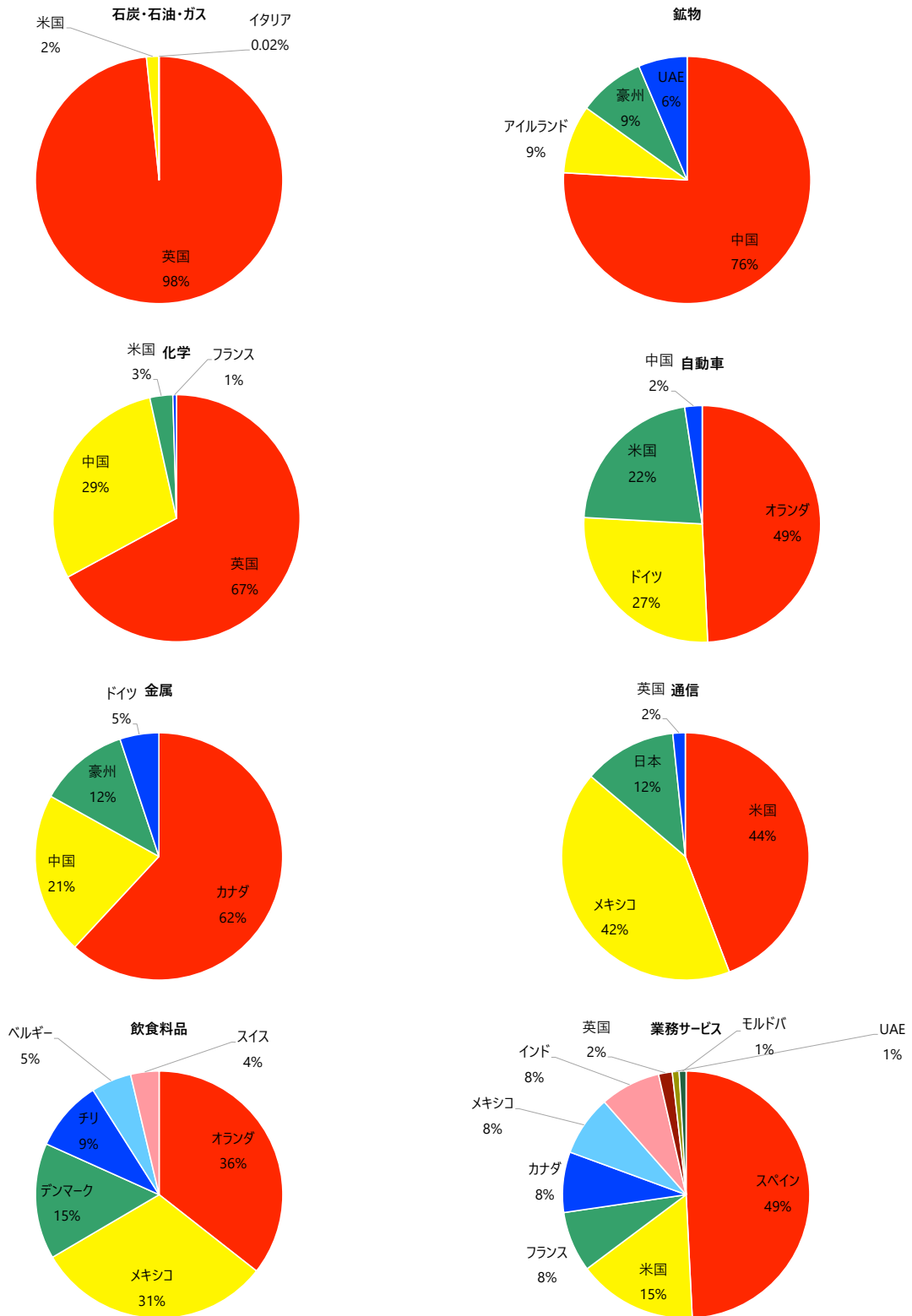


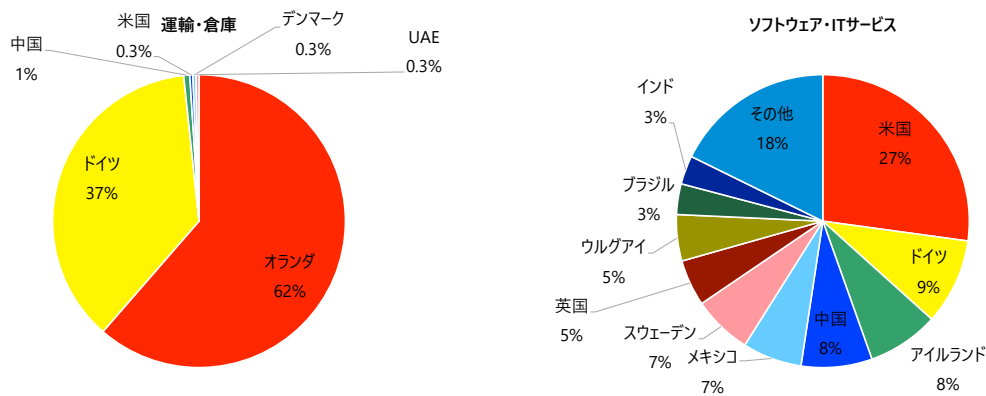
備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイトトーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

上記のアルゼンチン対内 FDI 上位 10 セクターについて、セクター別に投資国の内訳を見ると、石炭・石油・ガスでは英国、鉱物では中国、化学では英国と中国からの投資が多い（第 1-3-7-20 図）。

第 1-3-7-20 図 アルゼンチンの対内 FDI 上位 10 セクター内訳





備考：円グラフは2023～2025年平均。2025年は1月から11月時点までのデータである。

資料：Financial Times「fDi Markets」から合同会社デロイト・トーマツ「令和7年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（サプライチェーンの強靱化及び国際競争力の強化に向けた調査研究）」作成。

## 6. FTA 協定

2020年以降の自由貿易協定等の状況を示したのが第1-3-7-21表である<sup>57</sup>。ブラジルの発効済協定について見ると、チリ・ブラジル自由貿易協定が2022年1月に発効している。メキシコについて見ると、EU離脱に伴う英国との継続協定を結んでいるほか、2020年7月には米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）が発効している。USMCAは、1994年に発効したNAFTAに代わる協定であり、新たにデジタル貿易や腐敗防止、良い規制慣行などが追加されたことに加え、原産地規則や政府調達、紛争解決、知的財産権、労働、環境などの条項が更新された。また、加盟国全ての合意がない限り協定発効後16年目に失効するサンセット条項が規定された。コロンビアでは、2021年1月にEU離脱後の英国との継続協定として英国・コロンビア・エクアドル・ペルー貿易協定を発効しているほか、チリでは、2021年11月にデジタル経済パートナーシップ協定（DEPA）を発効している。DEPAは、シンガポールが他国と初めて締結したデジタル経済に関する協定であり、異なる体制間の相互運用性を促進し、デジタル化によってもたらされる新たな問題に対処することを目的とする。

<sup>57</sup> JETRO「世界のFTAデータベース」、<https://www.jetro.go.jp/theme/wto-fta/ftalist/>。

第1-3-7-21表 中南米の自由貿易協定等（2020年～）

国	No	名称	形態	経緯
アルゼンチン	1	メルコスール・シンガポール自由貿易協定	自由貿易協定	○2018年10月交渉開始 ○2023年12月署名
コロンビア	1	コロンビア・アラブ首長国連邦包括的経済連携協定	自由貿易協定	○2022年3月交渉開始 ○2024年4月署名
	2	シンガポール・太平洋同盟自由貿易協定	自由貿易協定	○2017年6月交渉開始 ○2022年1月署名 ○2025年5月発効
	3	英国・コロンビア・エクアドル・ペルー貿易協定	自由貿易協定	○2019年5月署名 ○2021年1月発効
	4	コロンビア・イスラエル自由貿易協定	自由貿易協定	○2012年3月交渉開始 ○2013年6月実質合意 ○2013年9月署名 ○2020年8月発効
チリ	1	チリ・アラブ首長国連邦包括的経済連携協定	自由貿易協定	○2022年2月交渉開始 ○2024年7月署名 ○2025年11月発効
	2	チリ・ブラジル自由貿易協定	自由貿易協定	○2018年11月署名 ○2022年1月発効
	3	シンガポール・太平洋同盟自由貿易協定	自由貿易協定	○2017年6月交渉開始 ○2022年1月署名 ○2025年5月発効
	4	デジタル経済パートナーシップ協定（DEPA）	その他	○2020年1月内容妥結 ○2020年6月シンガポール、ニュージーランド、チリにより署名 ○2021年1月シンガポール、ニュージーランドで発効 ○2021年10月韓国の加盟手続きを開始 ○2021年11月チリで発効、中国が加盟を申請 ○2022年5月カナダが加盟を申請 ○2022年8月中国およびカナダの加盟手続きを開始 ○2023年5月ペルーが加盟を申請 ○2023年6月韓国の加盟交渉が実質妥結 ○2023年10月コスタリカの加盟手続きを開始 ○2024年5月韓国が加盟 ○2024年11月ペルーの加盟手続きを開始 ○2025年1月コスタリカの加盟交渉が実質妥結
	5	英国・チリ連合協定	自由貿易協定	○2019年1月署名 ○2021年1月発効
ブラジル	1	メルコスール・シンガポール自由貿易協定	自由貿易協定	○2018年10月交渉開始 ○2023年12月署名
	2	チリ・ブラジル自由貿易協定	自由貿易協定	○2018年11月署名 ○2022年1月発効
メキシコ	1	シンガポール・太平洋同盟自由貿易協定	自由貿易協定	○2017年6月交渉開始 ○2022年1月署名 ○2025年5月発効
	2	英国・メキシコ貿易継続協定	自由貿易協定	○2020年12月署名 ○2021年6月発効 ○2022年5月「英国・メキシコ自由貿易協定」交渉開始
	3	米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）	自由貿易協定	○2017年8月再交渉開始 ○2018年9月交渉妥結 ○2018年11月署名 ○2019年12月3カ国が修正議定書に署名 ○2020年7月発効

備考：2026年4月取得データ。

資料：JETRO「世界のFTAデータベース」（2026年4月時点）から作成。